〔大正十五年七月廿二日第三種郵便物認可〕　磐城新聞　昭和六年三月八日　〔日曜日〕　第三千七十二號　〔一〕

夕刊

三月七日日發行

定價一ケ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金【普通】一行一回金八拾錢　【特別】一行一回金壹圓
五行十二字詰一行一回（最低廣告料金）
編輯兼發行人　佐藤善助
印刷人　佐藤善助
印刷所　磐城新聞社印刷部
發行所　磐城新聞社（ライラック）
平局私書函第十二號　電話第五六四番

超高速度の小說涉獵

赤井嶽男輯錄

『落花餘情』

秦賢助氏作

作者の言葉

——これは本當に理屈な抜しに面白い小說だ——とよく人々が云ふ大衆文藝といふものは讀者から、斯う云ふ言葉を聞かせられてこそ、それが價値のあるものである、大衆文藝には難かしい理屈もヘチマもいらぬたゞ汲めども汲めどもつきぬ興味が湧いてくれば本來の使命は果せるのである、本小說はどういふ風な筋を追つて發展して行くか、些か手前味噌ではあるが大衆文藝として興味の尖端を走つてゐるものと自負してゐる、ここで內容の一端を語るのはさけやうどうか、愛讀して頂きたい、そして、讀後の感想でも、聞かせて下されば欣幸である。

その一齣

お香代はハッとした。

帶を凝らしてよく見ればそれは窈窕たるかんばせの鳥追女であつた。

三味線を片手に、編笠を傾けて若い女は、つとお香代の側に寄つて來た。

『もし』

とその女は小聲で言つた『私は決して怪しいものではございませぬ。表の番人をりにふれて

古川丈夫

おゝ何處かの灯どもし頃よ故もなく此の街の人のなつかしき哉

返事する聲のふくめり此の少女鼻に病のあるらしきかな

顏そられ眼つぶりてゐれば傍に女郎の話する男あり

美しく愛らしき人の鼻の穴きたなくしをり悲しまるかな

風上にいとも大なる煙突の煙吐く如雲の飛びくる

雨にけぶる海邊歩みて思ふさまセンチメンタルをなつかしみけり

足に、二人は裏門の方へ走つた倒れかかつた裏の門扉を越ゆるもゝどかしく、足を宙に浮かせて、寂しい町を走つた。

眞つ白い月が、街家の上に、ぽつかり浮かんで道を、古く後に引いた。

長く、長く、長く二人の影が、西條の町を出離れると、

お香代は、相手が、どの

は、私が倒しました、息を吹き返さぬ內に早く逃れて下さいまし』

と言つて、手早く彼女の走る

拈華微笑

◇煙火殷々。國旗翩翻爽矣。

◇巢立つた百八十九の若鳥。人生五千圓。世の中はまだ長閑だ午後零時二分

◇催花の雨も結構ございます、お樂はお喜知らば、成たけ早くお歸り下さいますから、お喜知の心私を見殺しにはなさらぬこと存じます、それでは行つて參りますが、御親類方が然うなつて終つたのでは私が盃が濟みましたなら、其處で送りに付いて行く親類の先立は通油町の大和屋源右衛門、內々打明け引上げ方を注意する、此の大和屋源右衛門が大のおく病だから、驚いたの驚かないのぢやアない源』こんなことなら長男源太郎を名代に寄越せばよかつたお怒りに觸れた時には首が飛ぶ、是りやア御馳走になぞはなつて居られないわい』と考へる位、けれども今更どうすることも出來ません、飲んだ酒も悉く醒めてしまつてブル〳〵ふるえながら從つて行く始末、お喜知は氣丈な女だと見えて、彼是云つて居ては兩親が餘計に心配すると綿帽子を冠り表媒酌人の木津屋の妻女に手を引かれて立出ます、六左衛門に樂は屈托顏涙さへ浮べて夫れを見送りました、扨て愈々八丁堀の寺尾彌左衛門方へ乘込む、此方の客は質に大變で可成り廣い屋敷だが人で埋める位、左右兩隣の屋敷を借りて、一方は嫁の落着きどころ、一方は料理方其他手傳人の居る場所にして居る騷ぎ左隣りに落着きましたが最う待切つて居たところ、此方へとの案內者が來て寺尾の屋敷三々九度の盃の席へ立出でました、此邊のことは大略して盃事は無事に濟む彌左衛門眞逆に身代りかきたとは思ひません、盃が濟むと共にに喜知は其儘奧座敷へ伴なはれました、此處で綿帽子を拂ひ、色なほしの盃と云ふことになる、本津屋の女房と丁賀の家內が萬事の世話。

石城地方で紫煙に役す金月五萬らぬでもなく、お喜知の心私を見殺しにはなさらぬこと存じます、それでは行つて參りますが、御親類方が然うなつて終つたのでは私が盃が濟みましたなら、其處で送りに付いて行く親類の先立は通油町の大和屋源右衛門、內々打明け引上げ方を注意する、此の大和屋源右衛門が大のおく病だから、驚いたの驚かないのぢやアない源』こんなことなら長男源太郎を名代に寄越せばよかつたお怒りに觸れた時には首が飛ぶ、是りやア御馳走になぞはなつて居られないわい』と考へる位、けれども今更どうすることも出來ません、飲んだ酒も悉く醒めてしまつてブル〳〵ふるえながら從つて行く始末、お喜知は氣丈な女だと見えて、彼是云つて居ては兩親が餘計に心配すると綿帽子を冠り表媒酌人の木津屋の妻女に手を引かれて立出ます、六左衛門に樂は屈托顏涙さへ浮べて夫れを見送りました、扨て愈々八丁堀の寺尾彌左衛門方へ乘込む、此方の客は質に大變で可成り廣い屋敷だが人で埋める位、左右兩隣の屋敷を借りて、一方は嫁の落着きどころ、一方は料理方其他手傳人の居る場所にして居る騷ぎ左隣りに落着きましたが最う待切つて居たところ、此方へとの案內者が來て寺尾の屋敷三々九度の盃の席へ立出でました、此邊のことは大略して盃事は無事に濟む彌左衛門眞逆に身代りかきたとは思ひません、盃が濟むと共にに喜知は其儘奧座敷へ伴なはれました、此處で綿帽子を拂ひ、色なほしの盃と云ふことになる、本津屋の女房と丁賀の家內が萬事の世話。

元禄名妓傳

小邑井小邑演

（宮野恒彥畫）

第十六席

此時二階の媒酌人から時刻が來た、ソロ〳〵御仕度をと云つて來ました、滿月

愚圖〳〵はして居られぬ場位『扨て於母樣、私の守のことで、お喜知の上はど！』樂『それはお籠筒の中に、涙のこぼれる程感謝の念が燃えた。

『早く〳〵』

と女は耳元で囁いた。

『有りがたうございます』

『そのやうなことはどうでも、早く氣づかれないうちに——』

と女は、お香代のやはらかな手をとつた

彼女は、女に手をとられて、外に出た。

むしまの宿の庭を、忍び

合、斯うなつて來ると尚更り刀を頂戴したう存じます』樂『それはお籠筒の中に入れてあります、お房に

深夜の田舍道を、通る人影もなかつたのがせめてもの二人にとつては幸ひであつた。月を背負うて走る二人の窈窕たる手をやめは米滿上峠を離れてやゝ半時ばかり駈け通した頃不思議な謎の女は步みを緩めた。

日　△眞木和泉生る、和泉は有馬水天宮の祠官なり密に各藩の志士と交り長州の尊攘の士

7月3

時代警句（濱（石）

此時二階の媒酌人から時刻が來た、ソロ〳〵御仕度をと云つて來ました、滿月

○此世にありては正義は必ずしも勝を占めず正邪時に相轉じ是非屢々相反し孝貞節義の人往々にして無慘の死に終る事あり……

（我輩は猫である）

○世を擧げて人は覆面の中に呼吸せり（同）

○鴛りの世なるかな、僞の人となるか、形に拘りて其物を斥け名に泥みてその實を棄て末に走りて其本を遺る。顧みて人に問へば是れ卽ち文明なりと

（同）

ラヂオ

……八日（日曜）……

仙臺　JOHK

△九、〇〇 九、一〇A 氣象通報

△九、一〇 九、三〇A 榮養料理（牛蒡の玉子とじ）榮養研究所

△九、三〇 一〇、〇〇G 子供の時間　童謠と唱歌　獨唱（人形—文部省唱歌）外十二曲　熊本兒童

△一〇、〇〇 一〇、五〇 B 修養講座（信仰と實行）淨土宗光明寺派管長大僧正關本諦承

△一〇、五〇 一一、五〇 長野放送局開局　AK 奏樂　行進曲　NK一、開式　常務理事　AK二、奏樂　君ケ代　NK三、式辭（放送協會理事長門野重九郎）NK四、挨拶（協會長岩原謙三）NK五、來賓祝辭其他　AK六、奏樂行進曲　十一、閉式

△正午A 時報　ローカル　氣象通報　今日午後の番組豫告　告知事項

△〇、三〇 〇、四〇A 全國ニュース

△〇、四〇 一、四〇A ラヂオドラマ（結婚）原作ゴーゴリー改作熊澤復六（全くありそうもない話）

△一、四〇 三、四〇 ローカル　琵琶　京北六縣琵琶競演會　一、敦盛（下）二、橘大隊長　三、雪晴れ　四、木村重成　五、組豫告　告知事項

△三、四〇A 氣象通報（積雪量）

△三、五〇A 經濟市況

△六、〇〇 六、三〇 ローカル（子供の時間）新筝曲　童謠獨唱と齊唱　福島小林操學社中

△六、三〇 七、〇〇A 講演（ラヂオ文化に就て）司法大臣子爵渡邊千冬

△七、〇〇A 全國ニュース（官廳ニュースを含む）ニュース　氣象通報　番組豫告　告知事項

△七、二五 七、五五A 吹奏樂　海軍音樂隊

△八、〇〇 八、一五A 哥澤　一、春は賑ふ　二、淀の川瀨　唄哥澤芝加久松

△八、一五 八、四〇A 箏曲　一、千鳥の曲　二、櫻川

△八、四〇 九、三八A 所作音樂（紅葉狩）長唄　常磐津義太夫

△九、四〇 時報　全國ニュース　氣象通報　番組豫告　告知事項

吉田眼科病院

平町紺屋町

驚異的一大發明！特許アルコール厨爐出現

本器の使命、國家的燃料の革命、家庭經濟の合理化

絕對安全。經濟便利

在來無比の……

……酒精瓦斯發生器

壓倒的の大好評

時代の尖端を行く

錨印酒精焜爐

特價金八圓五拾錢也

材料	鐵銅鑄鉛琺瑯黃	目方	九四〇匁
形狀	長方形	容量	四合
大サ	13×75×35	用途	炊煮一般

家庭之福音

ガスヲ電氣モリヨ凡テ點ノ於ニ

便利ナ錨印

酒精焜爐

第六號器

釜屋商店

電話九番…九九番

平木村醫院

平町六丁目

電話　三〇九番

大和田醫院

平町南町

電話一七〇番

木村病院

平町新川町

電話　一六四番

高久病院

院長　高久忠

平町田町電五一三

市原病院

院長　市原卯太郎

平町田町電一一四

生徒募集

一、本科　高等科卒業程度ノ男女

一、普通科　入學資格　尋常科卒業程度以上ノ男女

一、新設農蠶科　高等科卒業程度ノ男女

一、右各科共ニ入學試驗ハ行ハズ願書受付順ニ入學ヲ許可ス

一、新學期開始　四月六日

一、詳細ハ規則書請求ノコト

昭和六年三月　平町六間門二十番地

磐城佑賢學舍

（電話九三）

診療時間　夜診

胃腸專門　梅毒專門

內科　十二指腸虫病　淋病　皮膚病　婦人病

內科　外科部

松村性病科醫院

（平南町電話一〇七番）

診察無料

如何ナル重患デモナオス本院デ特ニ今般眼鏡科の改良ヲイタシ檢眼無料デ確實ニ檢定シ

ドンナ眼鏡デモ卽座ニ間ニ合セマス非常ニ便利ニナリマシタ是非御用命ヲ希イマス

博士敬白

平三　大谷時計病院　眼鏡科

電話十九番

貸切の御用命は？

獅子吼（シシク）（四四九）の勢で

眞先に（マッサキ）（マツサキ）

三九二タクシー（ミクニ）へ

女流浪曲

久方振り御目見得

女流浪曲　松竹會女流團來演

九重次子

電氣應用引拔き早變り名人

京山光右工門

松平節千代

前田若千代

雲井滿月

春野百合鶴

補助出演　松平泰子

九重次子

松平八千代

現代浪曲の女王

當る七日八日九日三日間午後五時開演

入場料大勉強大人一等席金二十錢

後援　磐城時報社

會場　聚樂館

產婆開業

私事三井鑛業株式會社湯本鑛業所に開業致して居りましたが今般左記の處に轉居開業致しました何卒御引立をお願申上げます

妊婦。產婦。產前產後。生兒安全に努めます

御困りのお方には無料で御扱ひ致します

平町字田町五十二番地

（安齋外科醫院入口角）

產婆　白石テル

呼出電話六五三番

藤沼醫院

平町紺屋町電五〇七

廣告

軍神逝いて二十六年
壯烈な其最期を偲ぶ
憶ひ出の今三月七日を卜し
內郷で大越中佐追悼講演會

憶ひ起す明治三十八年の今月今日。そは李官僚の苦戰で身に數彈を蒙つた大越少佐が、大越中佐小傳抄（故植竹源太郎氏編纂）の所謂——一々之れを寸裂し詔勅の膽寫のみは捧めて丸と爲し謹みて嚥下せられたり（中略）見渡せば荒涼たる滿洲の原頭日は西山に傾きて鬼哭啾々銃砲の響きは殷々として百雷の轟くが如く、飛び來る彈丸は頻りに身邊の砂塵を揚ぐ此間に在りて少佐は恰も春風駘蕩の裡久淵の壯烈鬼人を泣かしむる最の友に邂逅せるが如く流期の日である、軍神逝いて血淋漓たる身の重傷を意恰も二十六年今日しもその携帶せる双眼鏡を受けてその厚意を謝し且つ添ふるに一片の證明書を以てす嗚呼斃死の身にして注意周到丁寧親切斯の如し然れども努めて之れを爲すに非ず是亦誠意の發露のみ

吹く風を待たで散りゆく花とも知るや知らずや、一等卒あはて止め甲斐もなく朦なる拳銃取りあげて唯一發の彈丸に眉間を撃ちて束の間に身はは かなくそなり給ふ——

懐しの母校をあとに
晴れの巣立ち
磐中卒業式了る

知事代理も臨席して

縣立磐城中學校第三十一回卒業證書授與式は今七日午前十時から同校講堂に於て擧行、君ヶ代合唱、勅語奉讀の上既報百八十九名に卒業證書を

學業操行優良生徒星恒雄外四名、在學五個年間正副組長勤續生徒三邊武右衛門内在學五個年間精勤生徒草野源正外三十名、今學年間精勤生徒白土兵衛外十六名

に賞狀賞品を授與し橋本校長の訓辭及左記縣知事（風巻視學）の告辭來賓歩兵第二十九聯隊長（八谷少佐代讀）同窓會長諸橋久太郎氏（代理副會長酒井清氏）の祝辭在學生總代四年生長谷川清美君の送辭卒業生總代星恒雄君の答辭、卒業生父兄總代加藤丈夫氏の謝辭あり十一時半式を閉ぢた

告　辭

本日茲に本校の卒業證書授與式に臨み多數卒業生諸氏と共の喜びを共にすることを得るは本官の洵に欣幸とするところなり諸氏は本校に入りてより茲雪の功を積む事多年今や本校卒業の榮を擔ふ諸氏の爲慶祝措かざる處なり諸氏は既に中學校の課程を終へたり卽我が國に於ける高等普通教育を授けられたり故に出ては直ちに家業に就く者は地方の中堅人物として鄕黨の間に重きを爲すべく猶進んで上級の學校に入る者は其の學校より既に自立し得べき程度の敎養ある者として取扱はるるを以て生徒たる諸氏の態度も亦自ら從來の中學生時代と異る所なかるべからず此の點に關して諸氏は十分反省留意し常に本校卒業者として体面を傷さざる覺悟あるを要す

惟ふに我が現時の情勢は思想經濟上容易ならざる處此程愈々落成したので明志五十餘名の特別宴會を開き一等卒に託して御佐の講演會を催したが入場勾して旅團長に致さしめ者多數頗る盛會であつたと

とせず談笑竟も平日と異命日に相當するので中佐のならず且つ悠然として傷出身地なる內郷村では今七腕を叩し整然たる述懷書日午後一時から第二小學校を作りて赤心を吐露し心に於て大越中佐追悼講演會身の力今や將に消耗せんを開き歩兵二十九聯隊八谷とするに至りて始めて筆少佐及同村在住沼田騎兵少を擱き一等卒に託して御佐の講演會を催したが入場

內親王御誕生
本日午後零時二分
皇后陛下には今七日午後零時二分御無事內親王を御分娩あらせられた

マルトモ樓上で
軍事講演と祝宴
來十日の記念日當日
平町分會の行事

在鄕軍人會平分會では來十日の陸軍記念日當日午後一時から松ヶ岡公園に集合忠魂碑禮拜後同一時三十分から四丁目マルトモ樓上に於て總會を開催

會務報告　會計報告　評議員推薦　班長同副長組長同副長推薦　其他

を一しそれより記念祝典に移り一般公開（定員二百名）の記念講演會に於て

兵器の進歩　四家少佐
實戰談　會員　老兵會員

の講演あり左記プログラムにより一般公開の記念演奏會を催し萬歲三唱散會する豫定であると云ふが祝宴會

改費は六十錢であると

（筝曲）落花の譬　植竹源太郎氏作歌、上原眞佐細吟氣味惡くくつ付いて喜氏作曲、箏遠藤佐喜野ゐる餘り感じのいゝ奴ぢや氏、安島八重子氏、三絃ない。然しながら貴婦人よ奥村佐喜梅氏、尺八小野その太刀魚こそ諸姉の爲め靜童氏

（餘興）音曲　中島湖州氏

賀表捧呈
平町愈施町會
を招集す

菊水　箏遠藤佐喜野氏、星恒代氏、三絃奥村佐喜宮中梅氏、尺八小野靜童氏（薩摩琵琶）大越大隊長賀表捧呈の件は明八日急施町會を召集し

懐しの母校をあとに
晴れの巣立ち
磐中卒業式了る

知事代理も臨席して

縣立磐城中學校第三十一回卒業證書授與式は今七日午前十時から同校講堂に於て擧行、君ヶ代合唱、勅語奉讀の上既報百八十九名に卒業證書を

學業操行優良生徒星恒雄外四名、在學五個年間正副組長勤續生徒三邊武右衛門内在學五個年間精勤生徒草野源正外三十名、今學年間精勤生徒白土兵衛外十六名

に賞狀賞品を授與し橋本校長の訓辭及左記縣知事（風巻視學）の告辭來賓歩兵第二十九聯隊長（八谷少佐代讀）同窓會長諸橋久太郎氏（代理副會長酒井清氏）の祝辭在學生總代四年生長谷川清美君の送辭卒業生總代星恒雄君の答辭、卒業生父兄總代加藤丈夫氏の謝辭あり十一時半式を閉ぢた

告　辭

本日茲に本校の卒業證書授與式に臨み多數卒業生諸氏と共の喜びを共にすることを得るは本官の洵に欣幸とするところなり諸氏は本校に入りてより茲雪の功を積む事多年今や本校卒業の榮を擔ふ諸氏の爲慶祝措かざる處なり諸氏は既に中學校の課程を終へたり卽我が國に於ける高等普通教育を授けられたり故に出ては直ちに家業に就く者は地方の中堅人物として鄕黨の間に重きを爲すべく猶進んで上級の學校に入る者は其の學校より既に自立し得べき程度の敎養ある者として取扱はるるを以て生徒たる諸氏の態度も亦自ら從來の中學生時代と異る所なかるべからず此の點に關して諸氏は十分反省留意し常に本校卒業者として体面を傷さざる覺悟あるを要す

惟ふに我が現時の情勢は思想經濟上容易ならざる處此程愈々落成したので明志五十餘名の特別宴會を開き一等卒に託して御佐の講演會を催したが入場勾して旅團長に致さしめ者多數頗る盛會であつたと

新裝美々しく
植田營林署開廳
有志四百名を招で
あす盛大な祝賀會

植田營林署は一萬圓の工費る竣功祝賀會を催し更に午を投じ過般來新築工事中の後一時より山田屋に於て有志四百名を招ぎ同町宇金畑の餘興あり近在からの人出べて大差なく不景氣の爲大衆向きのバット、なでしこ

金儲け內しよ話
—(22)—

御承知でもござんせう、してゐるかちうことを忘れ太刀魚と云ふ魚がある。表ちやいけません、何故ならするのか、銀粉と云つてもある。——『眞珠がお安ルロイドニスに混ぜ込んで皮には一面に銀粉のやうなば、我が太刀魚君の氣味惡の模造眞や用をなさない、詳しい精かと得意がつてゐたら大間の營業者の違ひですぜ新田町の姐さん火に乾かす、するとバナナの種の錯酸アミールは揮發して、セルロイドと太刀魚が後に固まると云ふ寸法。

投書歡迎

賦課は公平に

◇稅金賦課の査定は極めて公平でなければならないにも拘らず事實は如何？恐らくこの位不公平な出鱈目なものはない、大ザツパに見て月給取りと實業家で雲泥の差があり月給取仲間でも會社銀行員と役所の腰辨で宵壞の差がある、煎じつめると一番ワリを喰つてるのが元來バカ正直な木ツ葉役人といふ事になる

◇役場や稅務署の役人に給合算四、五十圓をポツポ入れてゐる者——それが甚等は一切合財絕對公平でありとは望まない。唯局限あれとは望まない。唯局限なくなかれ十餘年間——がされたサラリーマンのグルすつと薄給なビイ〳〵の腰見て月給取りと實業家で雲ーブだけでさいも可成りデ泥の差があり月給取仲間でも會社銀行員と役所の腰辨で宵壞の差がある、煎じつめると一番ワリを喰つてるのが元來バカ正直な木ツ葉役人といふ事になる

◇役場や稅務署の役人に給合算四、五十圓をポツポ入れてゐる者——それが甚等は一切合財絕對公平でありとは望まない。唯局限なくなかれ十餘年間——がされたサラリーマンのグルすつと薄給なビイ〳〵の腰見て月給取りと實業家で雲ーブだけでさいも可成りデ

◇稅金賦課の査定は極めて公平でなければならないにも拘らず事實は如何？恐らくこの位不公平な出鱈目なものはない、大ザツパに見て月給取りと實業家で雲